

令和2年度

第1回 羽黒地域振興懇談会

会 議 録 (概要)

期 日 : 令和2年9月30日(水)

場 所 : 羽黒コミュニティセンター 集会室

## 令和2年度 第1回 羽黒地域振興懇談会会議録（概要）

○日 時 令和2年9月30日（水）午後2時00分～午後4時00分

○場 所 羽黒コミュニティセンター 集会室

○出席委員 12名

百瀬清昭委員、阿部良一委員、山本興治委員、榎本トヨ委員、榎本久紀委員、田村廣実委員、堀誠委員、小南孝子委員、小林馨委員、加藤省二委員、星野博委員、岡部辰則委員

○欠席委員 3名

鈴木伸明委員、長谷川結委員、増坂加代委員

○市側出席職員

<羽黒庁舎> 支所長：伊藤義明

総務企画課長：菅原青、市民福祉課長：佐藤美香、産業建設課長：秋葉敏郎

総務企画課補佐：観世安司、総務企画課主査：成澤紀美

総務企画専門員：丸山浩二、総務企画課主事：野口有希子

総務企画課主事：三浦耀介

<本 所> 地域振興課地域振興専門員：本間育子、地域振興課主事：石黒正彬

○次 第

1. 開 会

2. 会長あいさつ 百瀬清昭 会長

3. 新委員紹介

4. 報 告

(1) 羽黒庁舎における令和2年度の取組について

(2) 新市建設計画の見直し（期間延長）について（資料1）

5. 意見交換

(1) 次期地域コミュニティ推進計画の策定について（資料2）

(2) 地域公共交通計画（仮称）の策定について（資料3）

(3) その他

6. そ の 他

7. 閉 会

## 【会議の概要及び発言趣旨】

### 1 開 会 （羽黒庁舎総務企画課長 菅原 青）

### 2 会長あいさつ （百瀬清昭会長）

（会長あいさつ）

皆さん、こんにちは。大変御苦勞様でございます。今日は、秋晴れでまさしく実りの秋を迎えた感じがします。中には、秋作業で大変お忙しい方もいらっしゃると思いますけど、曲げて出席いただきまして、本当に有難うございます。ただ今まさしく、コロナに翻弄されている感じがします。これから一歩ずつ元の日常生活それから、地域活動に戻っていききたいものだと思っております。みんなで力を合わせればなんとかなるのではないかと思っております。自然は、コロナに関わらず季節も動いております。という事で羽黒らしい活動をお願いしたいと思っております。今日は、報告事項一項目、それから、協議事項二つございます。委員の皆さんから意見を十分に出していただく為に、事務局の方から事前に資料配布されていますので、ごく簡単にかいつまんで説明をお願いしたいと思います。どうぞ、よろしく申し上げます。

#### 《懇談会委員・事務局自己紹介及び欠席委員の紹介》

### 3 新委員紹介

（羽黒区長会 会長 田村廣実）

皆さん、こんにちは。この4月から区長会長を仰せ付かっております。田村です。生まれも育ちも手向桜小路に住まいしています。どうぞ、よろしく申し上げます。

（羽黒地域PTA 連合会 会長 岡部辰則）

皆さんこんにちは。私もこの4月から広瀬小のPTA会長となりまして、宛職となりまして羽黒地域PTA連合会の会長を拝命させて頂いております。私の出身は羽黒の中屋地区になります。今年はなかなか小学校の方もコロナの関係で、大分行事も縮小されておりますけど、出来る限りPTAに関する意見を出させて頂ければと思います。宜しく、お願い致します。

### 4 報 告

（進行：羽黒庁舎総務企画課長）

#### (1) 羽黒庁舎における令和2年度取組について

— 事務局から説明 羽黒庁舎支所長 伊藤義明 —

#### (2) 新市建設計画の見直し（期間延長）について（資料1）

— 事務局から説明 羽黒庁舎総務企画課課長補佐 観世安司 —

## 進行

ただいま、羽黒庁舎における令和 2 年度の取組みと、新市建設計画の見直しにつきまして、ご説明申し上げました。どちらの方でも結構でございますので、何かご質問等ございましたら、頂戴できればと思います。

## 委員 10

新市建設計画の期間延長 5 年間として、何か特例債の枠を拡大して、新たな事業を盛り込むということはないのでしょうか？それとも、執行率がずれ込んでいるから 5 年間伸ばすのでしょうか？

この前、行財政改革推進委員会で、残高が何十億かあると説明を受けたのですが、これについては特に変更はないということですか？

## 事務局

ここに載っている事業だけでなく、新たな行政事業が今後生じた場合、そちらの方にも、合併特例債を使えるような体制にしておきたいということです。

(補足) 金額の方の変更はございませんので、当初の枠の中でやっていくということです。

## 委員 4

資料 1-④の事業の内訳ですが、羽黒地域のトータルで未実施のところが 3 ですが、裏面では 5 となっている。どちらが正しいのでしょうか。

## 事務局

裏の表 49～65 までの 17 をこちらに記載しております。47 と 48 につきましては、特定事業と書いてありまして、一番左の色のついた枠の中に入っております。

## 委員 1

私も初めてで、認識が浅いかもかもしれませんが、資料 1-④羽黒地域の事業数が、藤島に次いで非常に少ない。一概に事業数で判断するのは違うのかもかもしれませんが、中には大型事業があるのかもしれないが、その傾向的なもの、例えば隣の櫛引は 41 事業もあるというようなことで、どういった傾向があるのか。教えていただきたい

もう一点、ベースボールパーク事業、これは私が現職時代に担当していて、これはなくなったと思っていたところ、計画にあり、大変懐かしいと感じました。名指しでものをいうのはあれですが、今までの委員の中に、野球連盟の方いたので復活させたのかと感じたものですから、そのままずっと従来から、退職してから 14 年も経ちますが、この事業目が載っているので、その解釈でよろしいですか。2 点お願いします。

## 事務局

事業数の違いにつきましては、その当時どのような協議をして、ここに至ったのか、私も把握はしておりませんので、お答えのしようがないですが、それぞれの地域の事情によって、新市に

なってこのような街を目指したいという事あってのことだと思います。

ベースボールパークの件につきましては、大型事業になりますので、合併後の事業の優先順位でありますとか、事業に関する熟度でありますとか、そういったものを勘案しながら、今まで事業を進めてきているわけです。その中で、端的にベースボールパークについては、今はまだ熟度が足りないという状況でございます、未実施にあるという事だと思います。今後、これを実施するかしないかということにつきましても、今後においてもコロナ禍でもありますし、色々な行政事業も出てきますので、それを踏まえたうえでの、考えになろうかと思えます。

## 進行

大体よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、次の意見交換に移らせていただきたいと思えます。ここからは、百瀬会長に議長をお願いしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

## 5 意見交換

(議長：百瀬清昭会長)

### (1) 次期地域コミュニティ推進計画の策定について (資料2)

#### 議長

それでは暫時の間司会進行を担当しますので、よろしく申し上げます。

この時間は、意見交換の時間を長くとりたいと思っておりますので、説明は簡潔に、事前に渡してありますので、よろしく願いいたします。

事務局からお願いいたします。

— 事務局から説明 羽黒庁舎総務企画課主査 成澤紀美 —

#### 議長

ありがとうございます。

それでは、最初に大変恐縮ですが、今日、会議資料として参考資料にあります、私の集落の村づくりプランがやっと難産の末、9月に出来上がりました。大変恥ずかしい限りですが、ちょうどこのような機会がありましたので、ご紹介をさせていただきながら、皆さんから参考にしていただき、ご意見をいただきたいと思えます。

それでは、取り組んだ経過や、分かったこと、問題点や、色んなことがあります、最初になぜこれをやろうと思ったのかといいますと、私は最初、仕事を退職してからすぐに民生児童員をさせていただきまして、3年間だけでしたが、活動させていただきました。それから区長を3年という事で、合計6年間地域の活動にお手伝いをさせていただきました。その中で、いろんなところで勉強させていただきました。研修会や、現地視察、特に区長会は3年間で色んな所を見て、秋田・置賜等視察をさせていただきました。その中で、村づくり・地域づくりを頑張っている、成果を上げているところは、必ず長期プランがあります。5年計画、10年計画というものが必ずあって、しっかりした、ブレないものをもっている。これは防災計画もそうでした。防災マニュアルと、地域づくりビジョンがあるということが、勉強になりまして、ぜひ真似をしたい。私は

真似をするのがすごく好きです。ほかの人が苦勞してやったものをすぐにいただく。いいところをいただく。そのような傾向があるのですが、やはりできるところから取り組んでみたいという事で、この村づくりプランを着手いたしました。

もう一つ理由があって、うちの集落は、役員が1年~2年、昨年から1年交代で区長が変わるということになりました。人がしょっちゅう変わるものですから、変わるたびに仕事が変わるといふ事では、上手くないという事で、10年間の計画を示しておけば、人が変わってもスムーズに仕事といひますか、集落の活動が進むのではないかと、長期計画を作るべきだといふ考えをちょっと思ったからでございます。

それで、去年区長会で行った、川西町のNPO「きらりよしじま」。ここの視察をさせていただいたのが一番印象的でございます。そこの事務局長の高橋さんが、非常にリーダーシップがありまして、「あんなりたいもんだ」といふことで、うまい酒を飲んだ記憶がございます。そんなことで、半歩踏み出してみようといふことで、なるべくやらない理由を作らないといふ事でやってみました。

やはり、人づくりが一番大事ですが、行動のないところには、人は育たない。何もないところで人はできないです。何かやると人は育ってくると、人がいないからできないではなく、反対ではないかといふ感情を持っております。

それから、ローリング方式をしていかないと、いわゆるPDCAサイクルですね、これがないと、ほとんど絵に描いた餅になってしまうといふことで、うちの村づくりプランは、3年で中間評価を必ずやると決めております。これは新しい区長に納得してもらう必要がありますが、活性化推進委員会という名前で、区長がトップで常設の組織にして、人が変わっても、やることは変わらないといふようなことをやるために、プランを作ったといふ事です。一番工夫したのは、キャッチフレーズ・キーワードを何にするか、頭をだいぶひねったのですが、いろんところで使っている言葉を、真似させていただきまして、使わせてくれと断って、「笑顔輝く みどり豊かな月山麓 こだまの里」これのうち、上野新田や第四小学校では「こだまの里」と呼んでおりますので、これを使わせてもらった。それから、「和笑絆福」これもお借りしまして読みやすいようにしました。それと、「心が動く 人が動く 地域が動く」といふ事で、3つのリズムでどうかと思つて考えました。

これからうちの集落も人が減っていきます。空き家もまだあります。これから人がなるべく減らないようにするには、選ばれる村になるべきだと。引き留めるのではなく、選ばれる村。これが大事だと思つています。といふ事で、子どもたちがここに住んで良かったと、暮らしてよかったといふことを目指しております。それからやはり、これから都会から移住定住関係人口が着実に増えるだろうといふ見通しをもって、このような前書きにさせていただきました。

あとは、どこの集落も同じ項目が並んでいると思ひます。そんなに変わらないと思ひます。それでビジョンは5つです。それからそれに伴う具体的なアクションプラン行動計画がずっと並べてあります。横文字にすると怒られますので、必ずフリガナふっております。ある人から「よぐわがんねの」と叱られて、付ける必要があると思つております。

それから、Who、When、Howにしたのですが、これは誰がやるんだとある人に言われました。部落みんなで作る、区長だけがやるのではないといふ覚えがあります。

一応10年計画といふ事で「和笑絆福5つのビジョン&アクションプラン」といふことで、後で

詳しく見てもらえば、「なんだや、おらほでもやってっぜ」という事がいっぱいあります。全然できないことを書いても仕方ありません。今やっているもの、すぐ取り掛かれるもの、具体的なもの、これを盛り込んでいく。うちの集落は公民館が60年以上たったものですから、地震がくると一番早く倒れる、うかうか酒も飲んでいられない、そんな声もありました。ということで、具体的に公民館を3年以内に建てる、そのような目標を総会で決議したところです。これはワークショップをして、意見交換をしてよかったと、実際に目に見える形のものに取り組めると、実際ここにいる小南さんからも婦人会長として集落の女性の意見交換会に出て、正式なワークショップではないのですが、やり易いように型にはめなくて、自由に意見が言えるような場を作っていました。

女性方からは「はじめてだ」と「上野新田でこうやって区長来て話きくなんて初めてだ」と褒められました。という事で、意見交換会・ワークショップをやると、部落・集落が変わると手ごたえを感じているところです。あとは、うちの集落もイノシシとか熊とか非常にこれから危惧されています。あと資料の下の方に、某集落の公民館、はっきり言うと希望ヶ丘の公民館なのですが、公民館を建てるために、無償で鶴岡市内の5、6か所くらい見させていただきました。我々の戸数から見ても、希望ヶ丘のものが非常に合うと感じているところがございます。あと、アクションプランは、本当はこのA3版だけで終わりだったのですが、考えてみたら、どのようにするのか、これがわからないということに気が付きまして、実際に具体的な取り組みの計画がないとだめという事で、例えば、すぐにやるもの、それから2年～4年の間にやるもの、それから5年以上の長期計画で取り組むものということで、区分けをして、集落の誰が担当するのかという担当部署を書きました。これは勝手に私が少しなめったところもありますが、無理やりです。それから主体・役割・連携これも、関わるところがこういう所ではないかという事で、一応案を作って説明をしたところがございます。

これからスタートです。これを作ったから終わりではありません。これから鶴岡市でも第二次のコミュニティ推進計画がスタートします。うちもたまたま一次の最後に間に合ったような気がしますが、まさしく第二次のコミュニティ推進計画と一緒に、これから具体的に行動を起こすということになっていきます。私は3月で区長を退任して、発言権はなくなったのですがちょっと急ぎました。なんとか退任前にでかしたいと、急ぎ過ぎた感じもあります。最後の詰めが、集落の住民みんなで納得できるまで詰めができませんでした。これはコロナのせいにはしていますが、私の力不足だと思います。最後にみんなで納得して「んだの」と言ってもらえる計画にしたかったという事で、3月で任期が終わりという事もあって、コロナで4月は何もできなかったという事で反省しておりますけど、絶えず見直していけば、できたものは外す、また新しいことができると、どんなことをすればできそうか。

それからぜひ、他の集落も地域も取組みつつあるようですので、ぜひうちの集落版第一号ですけど、真似してください。なんにも問題ありません。いいところはすぐに真似する。そういうことが地域のいいところだと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

雑な説明で笑われそうですけど、これで終わりたいと思います。私の説明でわからないところとかありますか。

あまり立派なものを作ると、ろくなことありませんので、少し欠陥があるくらいでいいのではないかと思います。まず、住民がわかりやすいキーワードを工夫するといいいのかなという感じが

します。

## 委員 12

百瀬さんだったからできたというのもあると思いますけど、最初言われた時、公民館は建てたいとみんな思っていました。で、やはりビジョンっていうと難しく、何が何だかわからない人が結構多かったです。でも、これから、10年後を決めるのではなく、5年後くらいだったので、自分たちがどうしていきたいか、私達これから10年っていうと、高齢者もいいところで、ひよつとしたら生きていないかもしれないということもあります。私は今68歳ですけれども、78歳になります。自分がいなくなっても、自分の子供たちや、周りの小さい子供たちが、このようにしていきたい。田んぼも大きくしたら、自分が百姓できなくても、担い手が集まってくれるのではないとか、そのように自分で希望のようなものを出したのです。そうしないと、ビジョンといわれてもピンとこなくて、せめて自分の5年後、10年後を、最初に上野新田の女の方たちから、上野新田のいいところ、それから悪いところを、出してもらいました。最初に悪いところを出すと、みんな悪くなってしまうので、良いところから出してもらいました。それでこのようにしたい、悪いところはこうしていきたいという、いろんな話を重ねて、2回くらいは話し合いました。そしてこのアクションプラン行動計画を見て、「うまいのお〜」って思いました。

このアクションプランは、上野新田全戸に配布しました。やはりやってみないとわからないですが、作ったから終わりではなく、これから自分たちがいかにどうすればいいか、私は婦人会なので、この行動計画の中に、うちの方ではこれができる、これは協力できるかもしれないというのを、一生懸命にみて、できるところはできるし、できないことはできないけど、無理しないで、みんなお互い助け合っていないといけないというのがあると思います。

自分たちの集落をほめるわけではないですけど、頑張ったなと思いました。誰かがやろうと言っても、乗る人がいないとだめです。そして、「やってみっか？」ってだれか一人でも言えば、繋がるというところがあると思います。たまたま婦人会では2、3人「やってみっか」と、一人の意見に対して乗ってくる人がいたので良かったと思います。

## 議長

はい、ありがとうございます。やはり、女性の力は大きいです。色んな参加率もいいし、率直な意見を述べてもらえます。なかなか我々の年代しか集まりませんが、ぜひ、これからも女性からしっかりと、集落のサポートをしていただきながら、元気のあるところを作っていきたいなと思っています。うちの集落の宣伝ばかりで大変恐縮ですが、何かありますか。

## 委員 1

只今、拝見させていただきました。さすが、一集落でこれだけのものを作れるというのは、やはりリーダーとして、百瀬さん、この間も山新に載っていましたし、すごいなと思っております。私の方で気づいたのですが、10月7日の日に、区長会の役員会があります。そして、日程はまだ決まっておりませんが、11月になりますと、秋の区長会がございます。そこで、集落の振興策の一例だと思いますので、これを上野新田の区長さんなり、どなたか紹介していただくことはできないのでしょうか。



## 議長

それは、佐藤忠さんをお願いしていただければと思います。現職の区長でございますので、いいのではないのでしょうか。私と一緒に取り組んできましたので、十分内容は分かっているはずで、うちの集落でこれを始めたのは、村づくり講演会で「阿蘇裕矢先生」を呼んで、集落の福祉センターで講演会を開いて、そこからスタートしたのですが、去年の区長会でも、阿蘇先生から来てもらって、講演してもらいましたが、やっぱり外部からくる先生に入ってもらい、助言してもらいと非常に動きやすい。集落だけでは、なかなか言いにくいところがあるので、そういった方から進行してもらいたいのかなと思います。

あとうちの集落は、新しい区長が頑張っていますので、ぜひ話をしていただければ、全部できていますので大丈夫だと思います。

## 委員 1

今、上野新田は何軒くらいでしたっけ。戸数ですが。

## 議長

44戸です。

## 委員 1

やはり将来的に、何年後には何軒くらいというような数字はでておりますか？

手向地区ではその数も出ているようですが、どのような方向をされていますか。20年後というか。失礼なことを言えば、限界集落になるわけではないでしょうけども、このようなプランを作って、より他所から呼び込むという策もあると思うのですが、将来的にどのように見えますでしょうか。

## 議長

講師の阿蘇先生が、地域づくりプランの専門家として、国勢調査とか、色んなものを分析して、羽黒町内全体の集落ごとに20年後どうなるのか、そういったデータを全部作っておりました。それを見せてもらったのですが、うちの集落は20年後、25%の人口減という結果が出ています。現在、子供はいっぱいいますが、次に続かないと、このようなことになってしまうという事で、戸数減、人口減、これほどこも同じ課題だと思っています。だから必要だと思います。

他の委員の方ありますか？

それでは岡部さん、初めての委員ということでいかがでしょうか。

## 委員 9

上野新田集落がこのような活動をしているのを初めて知りまして、大変すごいと感じております。私は後田の中屋地区ですけど、たしか32世帯程だと思うのですが、やはり年々行事が減っております。例えば餅つき大会とか、今までは11月の23日にやっていましたが、やはり女性の

人が準備して、男性の方が飲み食いしてという構図がずっと続いていて、前日から米を水につけなければいけないとか、役割があるわけですけど、やはりそういった部分で、女性の方が積極的にやろうという事がなくなって、行事自体も尻つぼみのところがございます。また、集落の役員の方々は退職された男性の方というのもありまして、そこの中での議論が進むと、集落としての新しい考えというのは、正直生まれにくいと個人的に感じていました。ですからこういった活動をするときに、なかなか参加する気持ちが前向きになれない方や、参加しにくいという、集落の中でも、独身でずっといる方や、段々行事にも参加しない感じになっています。そういった方々とか、農業離れで、今までは生産組合で、部落の酒飲みがあったのが、どんどん農業に従事する人が減ってきて、組合員自体の人数が減り、例えば神社の集まりも神社から抜けて、どんどん皆さんが集まることから離れているのかなと感じております。

こういった地域を盛り上げる時に、いかにそういった方々を巻き込んで、みんなで楽しく活動できる様にするにはどうしたらいいのかなと思うのですが、実際上野新田地区でも、全員が全員前向きというのは難しいとは思いますが、そういった人達をうまく取り込んでいく策というのはあるのでしょうか。

#### 議長

岡部さんの話も共通すると思います。やはり出ない人は出ないし、なかなか出番がないということもあると思いますが、このへんは、このようなプランを作って、部落や集落の行事を、しっかり見える形で、出番作りをする。そして引っ張り込む。というのが一つの手法だと思っております。酒飲みも誘ってもこないという人もいますが、何か面白いことあると、目に見えるような形で巻き込んでいくと。何もないと何も巻き込めないです。そのような感じがします。他の集落でも、若い人や人材育成で、工夫しているところがあると思います。

そういった色んなノウハウを、披露していただければありがたいのですが、堀さんいかがですか。松ヶ岡はかなりいい人材も揃っていると思いますけど。

#### 委員 4

上野新田集落の取組み、本当に素晴らしいなと思ってみせてもらいました。私の方は、色々ワークショップはやってはいるのですが、上野新田さんのように自分達からというより、先ほどお話ありましたけども、開墾 150 年だとか、色んな歴史や状況があったりして、行政の方から協力や指導があって、それをいただいてきているという状況の方が強くて、自分たちの中からこのようにして盛り上げて、村づくりをしているのは、本当にこう羨ましいという感じがします。ただうちの方も、若い人たちは頑張っているし、行政の協力や指導はありますが、実際に頑張っている若い人たちを見ると、ある程度頼もしいなと感じている部分はあります。やはり集落の中で盛り上げているというのは、素晴らしいと思いました。

#### 事務局

すみません。一言だけよろしいですか。いま、百瀬会長から上野新田の事例をあげて、それぞれの集落でもできることであれば、プランやビジョンなどを作って、盛り上げていくのも一つの策であるというような事例紹介をいただいたわけですが、もう少し委員の皆さまにはそれぞれの

立場から、例えばコミュニティがどんどん萎んでいくという事も予想されますので、今後こういった取り組みをやっていったらいいのではないかと、今こういう課題があるのでこういう対応策をとったほうがいいのではないかとというようなご意見もいただければと思いますので、よろしくお願いたします。

### 議長

それでは、公共交通の分も考えて、もう 20～30 分。コミュニティ推進計画について意見交換をしたいと思います。それでは、今後第二期の推進計画が始まるわけですが、特に、これから進めるにあたってこんなことがいいのではないかと、こんなことが必要なのではないかとという事を、ご意見をいただければと思います。

実例があれば踏まえていただければと思います。

### 委員 3

私の方は、山の方ですから、熊とかイノシシとか領地内に出ています。その中で、観光、映画村その他、手向地区もそうですが、観光をうたい文句にしている町ということもありますので、我々の集落の方でも、若い人から免許を取っていただいて、集落の方で負担しているというのがございます。猟友会にかけますと、毎年会費とか経費面が発生しております。このままずっと行くと、集落で負担している分が底をついてくることが想定されます。ぜひ、町や市の方から更新であるとかそういう部分、お力添えをいただければと常々考えております。

私は、この次区長です。かなり若い段階で回ってきたものですから、すぐ若い人に行ってしまうというのがあって、代替わりの軽減という部分はかなりでてきたと思うのですが、役員数を減らして、もう少しまくできないかと考えているところです。

色んな集落があって、色んな事情があると思いますが、その集落にあったような計画を立てて進めていければと考えております。

あと、農協の立場で話をさせていただくと、集落のみなさんにお邪魔して、3 月にボランティアという事で、回らせていただいております。その中で、組合員のみなさんから集まっていたいて、話させていただく件があるのですが、集まっていた集落の皆さんは、今のよう、集落の活動を活発にしている集落だと見受けられます。やはりコミュニティはすごく大事でして、防災もしっかり助け合いもしっかりしていると感じました。その辺を見習って、同じようなことができるかわからないですが、ぜひ我々も推進していきたいし、また職員の皆さんも羽黒出身の人もいっぱいいますので、ぜひ参加してくれと声をかけていきたいと思いますので、よろしくお願したいと思います。

### 議長

ありがとうございます。これからコミュニティ推進計画を作るときは、コミュニティ自治組織、アンケート調査の資料にもございますけど、それから単位自治組織と、密接に連携をしていかなければいけない、共同作業だと思います。

このような取り組み事例やお考えとか、広域自治組織を部落集落との関係、いろいろ難しいと

ころあると思いますけど、これからの推進計画を進めるにあたってお願いします。

## 委員 2

広瀬地区自治振興会の榎本といいます。昨日、うちの方で高齢者 70 歳以上のお楽しみ会という事で開催しましたが、54 名の方が参加されました。その内男性は 4 名でした。去年よりは男性の参加多いですが、4 名以外は全部女性です。黒瀬のサロンは毎週水曜日に実施しておりますけど、参加者は 13 名~15 名くらいですが、全部女性です。男性はいません。声はかけているのですが、男性はなかなか来にくいような状況です。あと、黒瀬集落の総会、毎年あるわけですが、ほとんどは男性の参加で、女性の参加はない状況です。ですので、色んな回覧とか回るわけですが、集落内の財政の関係だとか、色んな動きを女性ははたしてどれだけ認識しているかという疑問はもっています。あと、黒瀬の老人クラブの役員も今年から頼まれてやっていますが、先ほどありましたが、老人クラブでも前は女性の役員もいたのですが、準備はみんなでやって宴会終わりの後片付けは女性がやってというパターンが昔あったのですが、そんなことが、老人クラブにこれから入るであろう年配の人たちが、察して、なかなか老人クラブに女性が入らないという状況がありました。3 年前から役員は男性のみです。そして、宴会終わった片付けも全部おじいちゃんたちでやる。そんなことで組織を維持している状況であります。今、黒瀬の状況だけお話ししましたが、別のことはあとで話します。

## 議長

ありがとうございます。ビジョンについて、コミュニティ関係で非常に老人クラブの皆さん頑張っていますので、そのへんについて組織とか、担い手についてどういう意見お持ちですか。

## 委員 11

地域づくりは高齢者の力、これが必要だと思います。私ども老人クラブは、まず一つは健康でいよう、健康寿命を延ばそうと、そしてそのうえで、いままでの経験をいかして地域に貢献しようという事をスローガンにして活動しています。ただ、高齢者の育成支援とか高齢者とか婦人会を組織つくっていく支援が無いです。ですから、できれば各集落の老人クラブの育成を、お願いして、そして、各部落の子供会と同じような形で、位置づけしてもらいたい。そして、地域に老人クラブ組織を作ってくださいますと、個人個人一人では何もできないので、組織で集まって組織でしゃべりながら、体を鍛えながら地域に貢献しようという事ですので、各集落の組織の中に子供会のような形で、位置づけして、老人クラブを育成していただけますと大変活性化につながると思います。今現在ですと、老人クラブが羽黒に 9 つしかないです。黒瀬は老人クラブに 54 人近くいますけど、申請とか報告事項の様々面倒くささがありますから、地域の自治振興会とかあるいは部落の方に作ってもらってサポートしていただければありがたいです。また、各自治会で何かするとき声をかけていただければ、一緒にやろうとなると思いますので、まずは各集落の組織に位置づけをお願いしたいと思います。

## 議長

貴重なご意見ありがとうございました。高齢者のグループは、非常にそうそうたるメンバーが

いらっしゃいます。うちの集落もそうですが、ぜひ、集落の組織の中に組織作りとかリーダー育成というような形で、しっかり位置づけしてほしいということですね。ありがとうございました。

アンケート調査にいろんな意見が載っていますけど、このへんも見ながら、これはこうではないかと、もしあればお願いしたいと思います。

## 委員 5

資料拝見しております、個人的な私の持論ですが、コミュニティは小さければ小さいほどいいというのが私の考えで、体制が活性化しないと広域コミュニティはありえないと思います。そして合併した大きいコミュニティが、更に続けていくのではないかと常々感じているところでございます。ただ問題点が、どうしても役員たちの負担が多すぎるとというのが各集落そうだと思いますが、持ち回りでやっているというのがほとんどだと思っています。そうした中で、年度年度で新しいことを考えてやっているのですが、長続きしないとか、だんだん参加率が減少していく中で、その事業を予算的な部分もありますが、やめてしまうということもうちの集落でありました。そのなかで、どうやって若手を育てていく、人材を育てていくというのが、これから一番大切なことだと思いますし、この推進計画、大変すばらしい内容で、このようになればいいなと私も拝見しておりましたが、この中の5年で策定するという中に、ある程度、上野新田集落の事例もありましたし、アクションプランが出ているわけなので、5年の中に更に人材育成のアクションプランやいろんなものを取り入れて、あるべきすがたはこうだと誰しもが描かれることが必要だと思います。それに向かってアクションで1年後どうする、2年後どうするということは、当然これから先出てくるだろうし、計画だけ作って皆さんやってくださいと言っても、それは無理なことだと思いますし、同時にアクションプランを考えていたら、素晴らしい計画になるのではないかと考えております。あと、商工会としては、単位自治組織が活性化されれば商店が潤うと思っているので、そのへんも踏まえてお願いしたいと思います。

## 議長

ありがとうございます。プランだけでなく行動計画ですね。このへんが一番キーだと私も思っております。ありがとうございました。

それでは、手向地区は羽黒で一番早く4月に出ておりました。勝木会長からも色々アドバイスを受けながら、うちの集落のものを作りました。星野博さん。手向にお住まいで関りがあったと思います、そのへんの現状やこれからの色んなこと、ご意見いただければと思います。

## 委員 6

今しがた、加藤さんの方から、若手を育てるというお話ありましたが、本当にその通りでございまして、とにかく手向の場合、いかに若い人が、結婚しているクラスの若い人だと思いますが、いかに手向から脱出するかしか考えていないです。今年になって、神社関係氏子の関係全てにおいて、中止になったわけですが、そんな中で、益々手向に対して、氏子としての自分の立場に対して、魅力を感じなくなってきた。「その話をあなた達は区長あたりにしているのか」というと、「区長には話できません」と、まるっきり年配の人に話ししてないようです。この間、うちに

5~6 人きて一緒酒飲みしましたが、やはり自分たちの心情を訴えるところがないということが、かわいそうだと思ったわけでございますが、彼らに対して今我々ができることは、我々の下に伝承していきたい。我々が培ってきた料理だとか歴史だとかすべてにおいて次の若い人らに伝承していきたいという気持ちがかかなりあるのでございます。それに対して応援したいという気持ちはあるんですけど、まずもって二言目には脱出したい。松例祭・お祭り・消防がある、色んなものが彼らの負担になっているようです。そんな中でやはり、10の集落があるわけですが、上下5つずつあります。その中で、じゃあ、下は下で合併しましょう、上は上で合併しましょう、そういう時代がそこまで来たわけです。まずもって、懸念していたことが現実になるのだということを感じました。今まで本当に年配の人たちにおいては、上は上、下は下の5町ずつの合併は考えられない。怒られたわけですが、そんな怒る余裕がないです。とにかくお祭り自体が崩壊するという危機感が、年配の人たちにないのです。若い衆に危機感というのは、自分らが今感じていることが本当に大変なことだと思っているのに、自分の子供の時代になったらどうするのかというのを、本当に感じています。先ほど百瀬ごうけん殿(山伏名)が、上野新田の話ありましたが、まずもって上野新田は若い人の活気があるという事に対して、我々は羨ましいなと思っているところです。上野新田から出ないという事が、それだけ魅力があるということではないでしょうか。それに比べて、手向ってというのは訴える場所がないのです、それで我々中間世代が話を聞いて上の方にまた話をするという状態・流れがあるわけです。そんなところで、自治振興会の話もそうですが、上のほうだけで話し合うだけで、若い人には伝わっていないです。だから私自身、自治振興会の副会長もやっていますが、何をやっているのかさっぱりわからない。片方、歴史まちなみ風致で塀を黒くしました、車庫を黒く塗りました。純和風でございます。その地点では、花いっぱい運動でプランターにローズマリーを植えて飾っているわけです。花いっぱい運動も素晴らしい事業でございます。その矛盾を、同じ手向に住む人と人ですから、話し合っただけではなく木を組み合わせてできないか、色んなやり方があると思います。ところが、一人一人が自分の正しいことは正しい、こっちも正しい。そういったことの現れです。だから、本当に我々中間世代が戸惑うわけでございます。それを見ている若い人はもっと複雑な気持ちで見ているわけです。だから、若手を育てるという事の大切さを、やはり我々が年配の世代に向かって発信するしかないと思っていますので、ぜひともこれから、上野新田のやり方を勉強させていただきながら、吸収させていただきながら、今後手向地区全体で、行ってまいりたいなと思っているところでございます。ごうけん殿(山伏名：百瀬会長)ご協力の程よろしく願いいたします。

## 議長

私の山伏の先生ですので、命令には従わなければなりません。ありがとうございます。

多かれ少なかれ同じだと思います。若い人と高齢者のギャップが大きすぎる、なかなか意見交換できないということがあるのだと思います。小南さんいかがですか。

## 委員 12

難しい質問です。私は何年間も婦人会長をやっていますが、次に続く人がやっぱりいないとい

うか、育てなかった私も悪かったのかという感じもあります。やはり皆そうですが、区長だと年功序列で段々下がっていきませんが、団体の会長となると、次に続く人がいなくなってしまって、婦人会も実際、「段々年いったさげやめさせてもらうの」ってあがっていくのはいいのですが、私は68歳くらいでは、あがる訳にはいかないです。まだまだこれからやる必要がありますから。それでこの問題は難しいと思います。

私ができることは、今年みたいにコロナ禍で何もできないときは、例えば100歳体操の世話方をして、みなさんにいっぱい元気になってもらうとか、広瀬や手向でもまた始まりましたし、理事の人たちや役員の人たちが色んなことをやっています。なかなか若い人は容易でないと思うのか、婦人会は魅力がないと思っているのか、あまり町の婦人会にも来ないです。ただ集落にはいっぱいいて、その人たちが入るか入らないかという話がありますが、別に町の婦人会をやらなくても各集落で色んなことをやっている団体があれば、私はそれでいいと思います。なので、羽黒町の婦人会がなくなっても、それは別に構わないかなと思います。実際いつかはそうなると思いますし、羽黒だけではなく温海も藤島も櫛引あたりもそうですけど、みんなやっている会長さん達は我々と同じくらいの年齢なので、「私方が辞める時は、一緒にやめようの」って、そんな合言葉のような感じで、みんな10年近く一緒に会長をやっている人が多いのですが、やはり上に立つ人は、下の意見を十分に聞くことが必要だろうし、自分の後継者を育てることが必要だと思います。やはり、「それはこうだろや！」ではなく、聞くことです。私はとても身に染みて感じましたし、自分がああだこうだ言われても、それは私が悪いと思っているのですが、なかなか次につながる人がいない。でも、各集落では結構いるかと思います。ただ見えないだけであって誰かはいるはずですよ。集落とか、うちの方の第四地区もそうですけど、役員は年寄りばかりで、若い人が入ってこないっていうのはあります。でも、探せばというか、今は忙しいけども、いつかはやりたいっていう人はいると思います。それを少しずつ少しずつ繋げていくことが、大事だと私は思います。

## 議長

ありがとうございました。どこの組織も次に担い手といえますか、人材育成に苦勞していると思います。だけど、お互い様だという気持ちでいかないと続いていきませんし、やめる時が大変です。大変ご苦勞ですけどぜひ、次のリーダーを育てながらお願いします。

では、榎本さんいかがですか。

## 委員 8

さっき、星野さんがおっしゃられたように、若い人はどんどん外に出ていくという事でしたが、山荒川にも一軒若いご夫婦の新居ができて、また中川代からもうちの方の集落に若い人だけが移ってきたというように、4軒くらい最近新しい人たちだけのお家ができました。その方達は、意外とすぐ溶け込んでくださって、うちのほうは毎週日曜日に公民館の掃除がありますが、若いお父さんたちが出てきて、早く来て「もうできたよ」という感じです。あと、運動会の反省会もそうですし、今年はコロナで夏祭りも中止されましたけども、新しく来た方々が、みんな参加して下さって、とてもいい雰囲気だなと思っております。

それから、山荒川には女性だけのグループが3つくらいあって、毎月おしゃべりの会みたいな

ものを延々としていますが、その人たちは結構いい意見をもって、「ここは、こうした方がいいあね〜」って集落の役員の方々に言っていましたし、婦人会やそういった組織にはなかなか若い人や、私たちの次の時代の人たちがなかなか入ってくれなくて、その点心配しています。それから、上野新田の村づくりプラン大変ご苦労様でした。すごいという話を以前から聞いていましたが、やはりリーダーさんがしっかりしていると、こういったプランも集落の皆さんを動かしてできるのだと思います。それで、防災のだれがなにを持ったとか、お話も聞きましたけども、そういったことで良い点とか、直した方がいいとか、いろいろ出てきたという事をお聞きしましたので、最近、災害は忘れたころにやってくるどころか、頻りに色んな災害がやってきます。羽黒町でも避難するほどの集落も出ている状況ですし、なかなか私たちも防災に対することをすごく心を痛めています。どうしたらいいのか。ただ、日頃の訓練が大事だと言われてはいますが、日頃の訓練ってと言われても、なかなか個人では、防災に備えての物をそろえるくらいはできますが、この頃、全国の民生児童委員連合会の方で、災害に備えるハンドブックという冊子を出しました。これを買ってみんなで例会の時でも、読んで知識だけでも、知識もなければ備えになりませんし、そうしたこともやっていけなくちゃいけないかなと思いつつ、進めています。本当に災害に対しては、集落の区長さんとかみんなで乗り切っていかなければならないもので、頑張っていきましょう。

## 議長

ありがとうございます。防災等について貴重な意見をいただきました。

一つ目の最後になりますけど、阿部副会長からお願いいたします。人づくりとか地域づくりについてコメントをいただければ。

## 委員 7 (副会長)

いつも言っているような気がしますが、人口が少なくなっていくのは当たり前ですが、ただ、先程からずっと聞いていますと、組織の運営で大変疲弊しているという事も、もちろんありますし、様々な会議のあり方や、担い手、我々であれば、お祭りの御祭事の運営のあり方、人が少ないと変えなければいけないと、一つは、今年若者衆が、さっき星野委員からもありましたけど、人数が少なくなってくるので、それを踏まえて大きな踏み込み方を今年にする予定になっていました。すでに正月のあたりからです。それがコロナという大変なものが来てしまいましたので、全く考えられないような、今年の御祭事ということになってくるわけです。結論は出ていないので組立ながら言いますが、幸いにして、そこまで踏み込むってことはいずれ来る人数で運営をするということなので、ちょっと私は陰ながらいい試練かなと思ったりしております。今年はコロナという名台詞があるので何をやってもいいだろうということもありますので、そんなところも踏まえて、来年再来年以降の姿かたちに持っていけると、これはたぶん皆さま仕事している中で、痛いほど思っていたのかもしれない。そういった意味で一つよかったのかなというのと、もう一つありがたかったのは、若者衆が、改革に着手してくれたことです。本来であれば面倒くさいからやめようという考え方があったかと思えます。神社の御祭事ですが、実は中止はしておりませんで、縮小です、いつもの年より、実は御祭事が多いです。コロナの疫病退散等ありますから、そういったものが増えていますので、いつもより多いです。ただ、皆さんをお



呼びしてというのがないので、中止みたいな形になっております。ただ若者衆の方針がないとできないものですから、神社として、ひょっとして今年は松例祭自体できないのかと、中には様々なところで働いている若者衆もいますから、仕事を休まなければいけない職種もありますから、そういった危惧をしておりました。その中で中心になっている顔ぶれが、自分たちができることを考えて、実施に向けてくれていますので、先程来の年寄りに対する気遣いも含め、そんなことを踏まえながら、大変今年はありがたい形だと、たぶん来年再来年に生きてくる材料に絶対なるという事です。今年は少々のことでも皆さん許してくれるはずですし、もし良ければ、今年はそういった松例祭がありますから、ぜひともそんな姿形でしているのだなと思っていただければありがたいと思いますし、また、皆さんが地域を続けていこうとする気持ちを、若者なりに表現してくれるわけですので、ぜひとも御覧いただければと思います。

組織の話ですが、やはり私は女性だと思います。先程出ましたが、男・男という組立、この会議もそうですが、女性の方は圧倒的に少ないわけです。様々な会議で女性の方多くなってきていると思いますけど、やはり、具体的な考えというのをきちんと持っておられ、それは家庭をきちんと守る、子どもを男以上に細やかに育ててくれるというのもあると思います。そういった中で、より具合的な考えをお持ちです。様々な場所で活躍もされているわけですし、決して男だけが世の中を決めているわけではないですから、ぜひともこの会議も、半分くらい女性だというくらいの方向も一ついいのではないのかなと思っております。そうやって、具体的に一步一步踏み出すのも、男だけじゃなくて、地域の全員で踏み出すわけですので、様々な資料見ましても、大変立派なものが、やはりみんなが知恵を絞れば、出てくるわけです。上野新田さんの計画ですけど、ビジョンがあってアクションプランが無ければなにもないわけですけども、みんなで考えたプランですから、みんな総出で向かっていくような、作っていく中で高まってきたのだと思います。本当に理想的な姿形が具体化していると思います。手向もビジョン、プランはできたわけですが、ちょっと私も最後の最後、コロナで全然出ていなかったのも、その後の動きがわからないですけど、やはり踏み出さなければなんの意味もないわけで、ぜひとも、そういった中に女性の力がより入っていただけるような組織、これは、これだけではなくて、様々なものがあると思いますが、ぜひとも大きなポイントになってくるのではないかなと思います。

前にも話したかもしれませんが、PTAの頃に、ほとんどお母さん方が頑張って運営してくれていました。ただこれが、子どもがいなくなると人質がいなくなりますので、組織もなくなって、関わるものがなくなり、大変大いなる力が散らばっていくことになります。ぜひ婦人部とかあるようですけど、なんとか繋がっていってくれば、自分たちも楽しめる場所でしょうし、活躍の場でもあったりと、それが、年をとっていきましても地域であったり様々な所でつながりの場面があるでしょうから、ぜひとも男だけの会もそのままあるでしょうけど、女性のそういった会もぜひとも運営を、あるものをなんとか、こういった場にも出てきてもらえるような雰囲気づくりをしていただければありがたいなと思います。地域はコミュニティが核だという話があったわけですが、手向も手向なりに、小学校からひとつずつと来ていましたけど、残念ながら合併というかたちの中で、神社としてはそういった意味で、ぜひとも限られた地域からではなくて、どこからでもお出でをいただいて、広く強く思いだしているところではありますけど、どうしても単位の町であったり、地域という事で我々は思ってしまう。これは当たり前ですので、日本人が日本人でなくて他の国と一緒にいるなんて考えないと同じようにあるわけですけど、ただ、こ

れからやはりそういうわけにはいかないというのも現実としてありまして、中には、町の合併だというようなことも出ていたように思います。若者衆に関しては既に合併をしながら、運営をしてきている。それは、本丸を崩さないがために苦渋の選択で合併してくれていると、気持ちはそこにあると思いますから、そういった意味での運営のあり方や、これから様々向かっていく形。これは組織じゃないのかなと思いますから、なにかその組織の組み立ての、組み換えを、そういったのをポイントにならないのかなと思ったりはしております。まとめるような話ではなかったかもしれませんが、そのようなことを感じましたので、話させていただきました。

## 議長

ありがとうございます。

## 委員 2

ひとつよろしいですか。

私、羽黒の自治振興会の連絡協議会という立場で参加しています。ちょっと場違いな話になるかもしれませんが、広瀬の各自治振興会もそうですけど、26年度に発足したわけですけど、その時に会費はどうするのか、将来的にどうですかと質問が出されて、将来的に会費の徴収は考えておりませんとはっきり言いました。そして、コミュニティ推進計画については、異論ありませんが、計画の中に、コミュニティビジネスだとかを検討しなさいとあります。一昨年、市長の方に直接お願いに行きまして、その結果、コミュニティの交付金の見直しをしてもらって、鶴岡市全体のコミセン、自治振興会予算を上乗せしてもらったわけですが、毎年同じ金額で、交付金となりますと、自治振興会の事務局を担う職員の賃金も毎年据え置きというような状況になります。非常に安い賃金で働いてもらっておりますので、やはり職員のやる気を踏まえまして、ある程度賃金ベース部分は上乗せをしていただければ非常に、自治振興会継続も非常に大変だと思っておりますので、強く要望申し上げます。よろしくお願いいたします。

## 議長

はい、ありがとうございます。

他にもっとあると思いますが、もう一つ残っておりますので次の議題に入りたいと思います。最後のまとめのところで言い足りないところを伺いますが、次の公共交通について事務局からお願いします。

## (2) 地域公共交通計画（仮称）の策定について（資料 3）

— 事務局から説明 地域振興課主事 石黒正彬 —

## 議長

有難うございます。羽黒地域のここにこバスが2路線運行していますが、これから免許返納者とか高齢者とかおりますので非常に貴重で重要な交通手段です。このへんについては、後ほどな

かなか乗車数が伸びていない、ちょっと伸びているか、そう感じておりますが、日頃考えている事、是非、こうして欲しい、御意見頂きたいと思えます。

#### **委員 1**

私の意見というよりも先般、9月8日だったか、佐藤課長さんもいたと思えますが、羽黒地域の福祉委員会の中に参列した中で、障害者からの御意見だったのですが、会議が終わってから言われたものですから、何かの機会の時にという事でこの場をお借りして本来はこういう事を論じる場ではないかもしれませんが、あえて私は、預かってきたものですから、申し上げると、私もこういう知識もあまり無いので、にこにこバスの減便数の話を聞いていますが、是非それは中止してもらいたい。という事をお伝え下さい。という事とそれから、2路線とも2コースというのでしょうか。2路線とも、羽黒庁舎を中継してもらいたい。というような事で是非、羽黒庁舎にも停車地として認めてもらえないものなのでしょうか、と言われたものですからあえて代弁して申し上げます。以上です。

#### **議長**

有難うございます。その他いろいろお考えの事ございましたらよろしくお願ひ致します。小林さん、中川代路線も走っているようですけども、いかがですか。

#### **委員 3**

私の方でも、バスも走っていただいておりますが、これから特に免許返納という事で高齢化の部分益々出てくると集落の中でも考えております。免許返納すれば当然、買い物弱者となり、お医者さんに行くにしても大変な状況なってくるのかなという風に考えております。是非、そういう方々の為にもバスは地区に残しておいていただければ有難いと考えております。

#### **議長**

有難うございます。それでは、もう一路線、加藤さん、川代山路線も非常に貴重な路線がありますが、何か貴重なご意見いただければと思えます。

#### **委員 5**

川代山も4月から川代山をスタートしながら、巡回してゆぽかを経由して鶴岡に行く路線だと思っておりますが、実際のところ、私は1回も見たことがないので。ただ利用者は何名か利用しているみたいですけど、ああいう物があればこそ使える、弱者救済の為にも是非、あれでなくとも、手法を変えてもいいと思うのですが、免許返納する人がこれから増えていくと思うので弱者救済の為にも何か、手立てという物を考えていければいいのかなと思えます。

#### **議長**

どうもありがとうございます。それでは、山本さん、二路線とも高齢者の方が病院とか通う交通を使って多いと思えますが

## 委員 11

難しい問題だと思いますが高齢者の免許返納、老人の車がない不安、郡部支援になりますから、やはり、各自治会みんなで路線を残して足のない方の買い物、あるいは病院通院、その辺など、応援していくべきだと思います。その為にもやはり税金とかみなさんに御負担がかかるわけですが、なんとか国からの助成を頂くとか、声を大きくして、何とか残していただいて、みんなで考えて残していきたいと思います。

## 議長

羽黒路線は庄内交通さんが走っていますけども、こちらの方々にここにこバス公共交通の件で御意見のある方いらっしゃいませんか。星野さん、いかがです。手向地区は、立派なバス路線ありますけど、

## 委員 6

それで助かっているわけですが、いわゆる庄内交通でも黒字路線もあり助かっていますが、私は、雨が降るとゆぽかに行きます。週 2 回程行きますが、いつ行ってもここにこバスに乗っている人がいないです。利用状況、これで合っていますよね。毎回行く度にここにこバスがゆぽかの前で止まりますよね。乗っている人がいないんですけど。

## 事務局

ここにこバスですが、近年来、徐々になんですけども、増加傾向にあつて昨年度、年間輸送人数としては、1998 人として増加傾向ではあるのですが、ただ、運行形態と致しましてゆぽかを經由するというのが上り下り 2 便ずつあるんですけども、そこで乗降された方は、まず、乗り換えでそこから乗車された方、ゆぽか利用で降車された方、という事でゆぽかの発着という点では、ちょっと人の動きとしては、少ない。現在の利用状況として、例えば、集落地内のバス停から乗って目的地の市街地で降りて帰る際も、ここにこバスに乗って集落のバス停に帰るというような形態になって利用されています。ただ、市街地への直通便が 1 日 3 便あるのですが、そのうち 1 便だけしか市内への直行便が無くて残り 2, 3 便はゆぽかで乗り替えて庄内交通のバス利用で、市街地へ行く訳ですから、乗り替えるという形になっているのですが、現在の利用者の方も主に高齢者の方が中心にご利用されている状況にありましてなかなか、乗り替えのところに対して抵抗があるという事で昨年度、利用者の方にアンケート調査等を行ったのですが、乗り換えに乗って利用については、厳しいというようなアンケート結果もございました。

## 委員 6

この辺が問題点でそれが嫌で免許返納しない方が大勢いらっしゃいますよね。なんとか返納出来るようにフォローするのもいろいろ考えていかなければならないのかなと考えていて、家の祖母も、危なくてしょうがないですよね。近所の 98 歳の爺さんがいてバイクに乗っています。とてもじゃないけど、見てられなくてなんとか、周りの人がフォローできるシステム作りを考えていただければ有難いと思います。有難うございました。

## 事務局

補足します。今ありましたが、にこにこバスの件ですけど、発足した平成 24 年度に利用者が 1200 人程度だったのですが、利用拡大協議会の活動のおかげで昨年度は約 2000 人になっておりまして、なかなか増えるのはすごく珍しい事です。羽黒地域は非常にこの点、頑張っていて、地域の皆様からも公共交通維持する為にも一生懸命乗っていただいているという状況にあります。高齢者の免許返戻支援という事だったのですが、これは、是非ご利用いただきたい制度が平成 30 年度からゴールドパスという制度があります。庄内交通のバスの定期券が 1 ヶ月 1 万円するのですが、これは 70 歳以上の方だと 2500 円で買えるという非常にお得な制度がございましてこの利用件数凄く伸びています。

その関係で輸送人員も資料 4 枚目にありますけど、平成 28 年度下げ止まって徐々に全市的に伸びているところもあるものですから是非、こういうところ、市のシステムをいろいろ補助制度とかで乗っていただく為の支援やっておるものですから、こういった物を使っていただいでどんどん乗っていただいで乗らないから無くなるというのが地域公共交通なので、是非乗っていただく取り組みをしていただければと思います。補足でした。

## 委員 2

にこにこバスは、手挙げればどこでも止まってくれます。黒瀬は、停まる場所無いです。あの辺歩いていて広瀬活動センターにいきたいな。と手挙げれば止まって乗って行けます。後は、広瀬活動センターまで時間要請で定期的に来てそこでにこにこバスに乗って、鶴岡で買い物されてそして、またにこにこバスに乗って広瀬活動センターに降りて自家用車で帰る。これは、利用増進の為に不定期的にその様にされている方もおられます。紹介までに。

## 委員 8

ちょっとお訪ねしたいのですが、一人暮らしの高齢者の男性の方から聞かれたのですが、自分も 87 歳になったものだから免許を返納したいけれども、最近車にも乗ってなくて庄内交通のバスで通院していると言っています。鶴岡駅まで行くと 600 何十円とかでそこから自分が行っている医療機関まではバスが無いものだからタクシーを使うと結局 1 日 3000 円近くの交通費になってしまっている。もし、免許証を返納したら、先程お聞きしました 1 ヶ月 1 万円定期が 2500 円で買えるというのと、それから前は、返納した時 1 万円のタクシー券もらえました。

## 事務局

今、免許を返納されたその年限りですけども、タクシー、バス券 5000 円がもらえます。

## 委員 8

そしたら、2 回も使われた訳ですね。そうですか。1 ヶ月の定期券を買ってもお医者さんに月 1 回しか行かなければ、損しますね。まず、頭で考えるしかないですね。その定期券は、庄内交通まで行って買うのでしょうか。

## 事務局

そうです。ゴールドパスは、庄内交通さんの営業所で買います。70歳以上の方でしたら買えますので。

**委員 8**

何か、保険証か何か持って行って？

**事務局**

そうですね。あと、顔写真付きの何かがあると思います。1ヶ月 2500円ですけど、1回だけの通院だと確かに大変なところはあると思います。是非、他の用事とかそういったところもあると思うので使って頂いて。

**委員 8**

どこまで行っても市内であれば？

**事務局**

はい、そうですね。市内であれば。

**委員 8**

そうでしたか。はい、有難うございました。

**委員 11**

にこにこバスは定期便運行ですけども、需要に応じて走るデマンドバス、その辺のこれからの考えはございますでしょうか？

**議長**

他の所の事例があれば、お願いします。デマンド方式ですね。

**事務局**

総務企画課の丸山と申します。いまおっしゃられたデマンド交通、鶴岡市内でも、藤島地域の方で取組して行われておりますし、今櫛引地域も検討中ではありますけど、デマンド交通というのは、乗合バスの形態ではありますが、あらかじめ、予約制のような形で運行するという事で事前に予約して人数の予約数確保したら運行するという形態です。一方でにこにこバスは、定時、定路線の路線バスとしての運行ということでそれによるメリット、デメリットも当然ある訳ですけども、路線バスとしてのメリットとしては、まずは、定時にその運行路線上にいれば利用出来る。という事ではあるのですが、ただ、先程の話にもありました利用者がいない場合、空の状態でも運行したり、という事があって費用対効果は求められてはいないといいますが効率という点では改善の余地があるのではないかなと考えられます。デマンド交通のメリットとしては、予約で事前に行きたいに行ってくれるメリットがあり、時間も短縮出来るということもあるかもしれませんが、今まで羽黒地域においての路線バス維持という形態できておまして、今現在も考

えて今のところは方針の変更というところには至っておりませんが、他地域の状況等をみながらゆくゆくは、デマンド交通という手法も検討しなければならないのかなと考えております。

#### 議長

有難うございます。

#### 事務局

補足します。デマンド交通ということで確かに藤島路線の方も進んでいますし、明日から温海の方でも始まるもので、1 つは、デマンド交通を入れますと既成の路線バスとの並行が出来ないところがありまして、デマンド交通入れると確かに便利なところがあるんですが、一方でそこを走る事については、庄内交通さんが路線撤退します。という風になるという点もでございます。デマンドになりますと、基本的に地域で運行協議会作っていただくような形になるところがありまして、そこで、契約、オペレーションの業務などを担っていただくものがある訳です。こういった交通手段がいいかというのは、地域の中で少し、いろいろ御意見とかもあると思いますけど、検討の上、どんな交通のあり方がいいのか考えていただく必要があると思います。デマンドにすれば全部良くなるというものでは必ずしもないという事を一つ御理解いただきたいと思います。

#### 議長

実はうちの第四地区の桜ヶ丘が昨年から集落の真ん中の新しい住宅団地を回るようになったのですが、それにかからんで神奈川県から移住定住された方から非常に良かったと。こんな有難いことはない。是非、言ってくれ。とそんなことを伝え話されました。神奈川の首都圏の方は、そういう物、慣れているものです。バスを待つとか、電車待つとか、だからほんのちょっと遅れたからどうってことない。ただ、我々地元の方は車主体だから、そういうバスに乗り慣れないのもあるし、体験乗車のようなことを、老人クラブでして結構ですし、そういうものを工夫していただくと、「いいんだの。」というふうな感じがあると思います。是非、その辺も検討してもらえれば有難いと思います。

#### 委員 1

1 点だけお聞きしたいのですが、櫛引では、スクールバスに一般の住民も乗れる制度がある様ですがこれは、運輸局への申請段階の違いなのでしょう。

#### 事務局

櫛引では現状、スクールバスでの混乗やっております。運輸局からも申請取ってスクールバスへの住民の方の混乗をやっている状態です。ただ、利用状況は非常に少ない状態です。制度でやってはいますが、利用する方としては、あまりいない。そんな現状になっております。

#### 議長

それでは、時間も 10 分ほど押しているようですが、これは言っておきたいという方。

#### (3) その他

## 委員 1

私も委員として今回初めて出席させていただきましたが、その他、という事で。前は、羽黒地域審議委員会から地域振興懇談会と名称は変わったようですが、年に何回ぐらい開催されるものなのかが1点と、皆さんからさまざま意見が出されました。私もメモを取ったのですが後日、業務量も増えるかもしれませんが、議事録的な物を一つ、みんなに配るという事は可能でしょうか。2点だけお願いします。

## 事務局

お答え致します。例年ですと年1回から2回というのが通常です。一昨年は計画策定がありましたので4回ぐらい開かせていただきましたけども、頻度としてはそのような感じですが。今回の様に議題があれば何回も開くというような感じになりますけども、年1,2回と考えていただければいいと思います。議事録の件ですけどもこちらでこの会議の後、議事録を作成いたしまして委員の方にはお配りさせていただきたいと思っております。以上です。

## 議長

事務局から何か他にございますか。よろしいですか。

## 事務局

ございません。

## 議長

10分ほど押してしまいましたけど、これで今日の協議を終了させていただきたいと思っております。どうもご協力有り難うございました。

事務局にお返しします。

## 6 その他

### 進行

ありがとうございます。コミ推の計画も、公共交通の計画も今年度中に策定するといったことで、今回非常に様々なご意見やヒントをいただけたと思います。ありがとうございました。

次第の6番のその他でございますけど、せっかくですのでこの場でお知らせしたいこと等ありましたら頂戴したいと思います、特にございませんでしょうか。

## 事務局

今日のご苦勞様でした。市民福祉課長の佐藤です。私の方から事業の紹介ということでPRさせていただきたいと思っております。毎年市民福祉課の方では、冬季に65歳からの健康づくり事業「男塾」という事業をしておりますけど、今年度は12月7日に社会福祉法人羽黒百寿会の地域貢献事業と合同企画という形で、山形県医師会会長の中目先生を講師にお迎えしまして、認知症のことにつ



いて講演会を開催します。広報 11 月号と一緒にチラシを配布しますが、12 月 7 日（月）午後 2 時から羽黒コミセン集会室を会場に開催を予定しておりますので、ぜひ申し込ただければと思います。

## 7 閉 会

### 進行

他にございませんでしょうか。

ではないようですので、これを持ちまして第 1 回羽黒地域振興懇談会を閉会いたします。

本日はお忙しいところ本当にありがとうございました。